

## 「食料自給率向上のための21世紀の土地利用型農業確立を目指した品種育成と安定生産技術の総合開発」プロジェクト推進評価会議が開催

～大豆に関する研究もようやく育種と栽培の両輪がそろいました～

去る2月19～20日、つくば市の農林水産省筑波事務所において、「食料自給率向上のための21世紀の土地利用型農業確立を目指した品種育成と安定生産技術の総合開発」プロジェクト（略称：21世紀プロ）の推進評価会議が開催されました。

平成12年度の研究成果については、高イソフラボン大豆の品種育成、不耕起播種栽培の収量安定、根粒超着生系統の活用、有色大豆の持つ機能性の解明等の分野で着々と成果が上がりがつつあります。特に豆腐のゲルの形成メカニズムやこく味（うま味）についての報告は、加工適性の本質に迫る研究で、まだ仮説段階にあるとはいえ、今後高品質大豆の育成に大いに影響を与える可能性があります。

転換畑での大きな課題である耐湿性品種の育成については、なかなか研究が進まない困難な課題ですが、低酸素ストレスの解明、耐湿性素材の選抜等が報告され、直ちに実用化できないとしても、将来に向けた研究の芽が育ちつつあるように思えます。

平成13年度からは、これまでの38課題に加えて栽培研究が大幅に拡充され、合計で69課題となります。参画する研究室も公立試験研究機関が大幅に増えたこともあって、大学3、実需者5、公立機関25、国立試験研究機関8、合計41機関とこれまでにない規模のものとなりました。

平成13年度から始まる栽培試験は、大豆の主要生産県の多くが参画し、北海道、東北等の各ブロック毎に国の栽培関係研究室を中心に連携協力しながら試験研究を進めていくことにしています。大豆の本格的な栽培試験は初めてというところもあるようですが、収量の安定多収化のみならず、昨年問題となった莢先熟の抑制、実需者ニーズに応じた高品質化等意欲的な計画が多く出されています。なお、研究期間が限られることもあって、各課題の手法や調査項目の統一などデータ活用の共通化が指摘され、今後横の連絡を密にしていくことが確認されました。

近年の大豆研究は育種に偏っていたきらいがあるのですが、栽培研究の大幅強化でようやく育種と栽培という両輪が揃い、今後の技術開発がこれまで以上に進展することが期待されます。

なお、12年度研究成果については、今後、各試験研究機関のホームページで公表される予定です。

発行：不定期

発行元：農林水産省農産振興課 豆類班 tel 03-3502-8111（内線 3543、3534） fax03-3502-0869

- ・記事や大豆生産振興に関する御質問・御感想など、御自由にお寄せください。
  - ・記事を転載される場合は、御一報ください。
  - ・農産振興課では大豆に関する情報発信手段としてホームページを開設していますので、是非ご利用下さい。
- なお、大豆ホームページアドレスは <http://www.maff.go.jp/soshiki/nousan/hatashin/daizu/> です。

